

制度は主体の行動・認識（マイクロ）および社会的帰結（マクロ）との間（メゾ）で二重円環的に相互作用することで生成，維持，変化，消滅する。本稿では，貨幣制度の下で自己の行動を決定するための価値基準である“貨幣意識”と“マイクロ・メゾ・マクロ・ループ”の関係を明らかにするため，社会活動によって貨幣意識に差異があるという仮説を提唱し，その検証を行った。社会集団として対照的な存在と考えられる地域通貨関係者と金融関係者を対象に社会活動の違いと貨幣意識の違いとの相関関係を調べた。そのために，各集団に対して5つのメタルール（効率・自由・平等・安全・友愛）を導入した貨幣意識アンケートを実施した。結果から，貨幣意識のメタルールとして「多様性」「公正」「利益志向」の3つがあることがわかった。そのうち地域通貨関係者は，金融関係者に比べて「多様性」と「公正性」を重視する傾向にあり，「利益志向」は両者で有意な差がないことがわかった。我々が導入したメタルールにおいても，地域通貨関係者は「平等」「安全」「友愛」といった公共性に関するメタルールを重視する傾向にあるが，逆に金融関係者はこれらのメタルールを重視しない傾向にあった。以上のことから，地域通貨関係者と金融関係者では貨幣意識に差異があり，貨幣発行の「多様性」と政府の積極的な役割を求める「公正」に違いがあると結論付ける。

キーワード：貨幣意識，マイクロ・メゾ・マクロ・ループ，制度生態系，メタルール